



特集 ①

コミセン 40周年とこれから

コミセンの愛称で親しまれる市内16地区19館のコミュニティセンターは、第1号となった境南コミセンの設立から40年の節目を迎えました。



コミセンで、こんなことができます

- 仲間と集う
- サークル活動に使う
- 学習する
- 地域の集まりに使う
- イベントに参加する
- 地域の情報を知る
- 楽器を練習する
- 友人と料理を作る
- スポーツを楽しむ
- ふらっと立ち寄る

設備やイベントはコミセンによってさまざま。まずは近くのコミセンに行ってみましょう。便利なことや意外なことが見つかるかもしれません。「これはいいな！」と感じた施設やサークル、イベントなどがあれば利用したいコミセンに直接お問い合わせください。



コミセンによろしく

コミュニティセンターの第1号館である境南コミセンの開設から今年で40周年を迎えました。コミセンは、各地域で子どもから高齢者までが気軽に集える場として設置され、コミュニティづくりの拠点として、地域のボランティアの皆さんが設置する「コミュニティ協議会」が運営しています。

各協議会は、コミセンまつりやコンサート、パソコン学習会や料理講習会、環境・防犯活動など、地域の団体や大

学などとも連携し、さまざまな事業やイベントを企画してコミセンを会場に実施しています。また、市や地域の各団体もコミセンを使って多くの事業を開催しています。

すべてのコミセンで部屋の利用は無料です。多目的室でみんなと趣味の活動をするのもよし、体育室で友人と汗を流すもよし、また、ロビーでゆっくりくつろぎ利用者同士の交流を深めるもよし、使い方は皆さん次第です。お近くのコミセンへどうぞお越しください。

自分と地域のために参加・企画・運営する

市民の力がつないだ40年

時代が求めた
「コミュニティ」

昭和46年、市の長期計画によって「コミュニティ構想」が掲げられ、コミセンの検討と設立が始まりました。その背景には、戦後GHQの求めによって国内全土の自治会が廃止され、その後、主権の回復に伴って各地の自治会も復活したものの、大きな社会変

化の中で従来の人のつながりが失われてしまったという全国的な課題がありました。

先の計画で市は「コミュニティとは自然に生まれ、市民自身が作るもの」との考え方をまとめ、地域住民の自主参加・自主企画・自主運営を旨とするコミセンを各地に設立することを決めました。

昭和51年の7月に第1号館となる境南コミセン、翌年1

月には2号館となる西久保コミセンが完成。以後、市の職員を配置する方法はとらず、市民の力で地域に根を張り続け、今年で40周年を迎えました。

いきいきとしたコミセンの活動と、そこで活躍している市民の方々に焦点を当て、地域の人と人をつなぐ「コミュニティ」の魅力とその役割について紹介します。

市民の「やりたい」を形にしてきたコミセンの歴史

武蔵野市独自のコミュニティづくりは、「コミュニティ構想」において「コミュニティづくりは市がおしつけるべきではなく、市民自身がおしすすめていくもの」とされている通り、運営のすべてが市民に委ねられています。その点は今も変わりなく、コミセンの歴史は市民によって築かれてきました。コミセンのイベントや会合はすべて誰かの「やりたい」を形にしたものだと思います。

コミセン40年の略歴

昭和46年	第一期長期計画の中で「コミュニティ構想」が掲げられる。
昭和51年	基本理念や管理・運営方法などを定めたコミュニティセンター条例を制定。同年に境南コミセンが開館。
昭和53年	「コミュニティ研究連絡会」が設立。
平成4年	吉祥寺西分館と関前分館が開館。16地区20館体制に。
平成14年	コミュニティセンター条例を改正し、「武蔵野市コミュニティ条例」を制定。
平成18年	各コミュニティ協議会と市の共催による「市民と市長のタウンミーティング」開始。
平成26年	「武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会」提言。

コミセン40周年の記念式典が開かれました

11月3日に境南コミセンで、開館から40周年を祝う記念式典と祝賀会が行われました。式典では邑上市長が挨拶で、コミセンのさらなる発展に期待を寄せ、地域の方々と喜びを分かち合いました。今年には緑町コミセンも開館から30周年。来年1月には西久保コミセンが40周年を迎えます。



45年前から受け継がれる「市民中心」の伝統

昭和48年に開かれた第1回コミュニティ市民委員会



コミュニティの活動内容だけではなく、用地の検討、施設の整備内容といったハードウェアまで、あくまで市民が中心となって行政と連携しつつ進めていくのは武蔵野市のコミュニティ政策の大きな特徴といえます。市民による市民のためのコミュニティという方針は、45年前から変わらぬ伝統として生き続けているのです。

市民の願いで形作る コミュニティ空間

平成24年12月に新築移転を完了した八幡町コミセン。移転新築の陳情から検討、完成までを見守ってきた八幡町コミュニティ協議会の渡邊さんにその思いを聞きました。

わずか60坪の集会所から

昭和55年に市内7番目のコミセンとして誕生した八幡町コミセンは、この地域に根付いていた「親和会」という住民組織の集会所を建て替える形で開館しました。

わずか60坪で1階に和室2階に会議室だけ。それでも住民の愛着ある場所として親しまれましたが、20周年を迎える頃には、狭くて使いづらいつの声が活発になってきま

全6回の「新八幡町コミュニティセンターづくりワークショップ」の主題

- (1) 設計者の考え方の説明、住民の要望など
- (2) 新コミセンでやりたいことの検討など
- (3) 模型での検討、計画案の原寸体験など
- (4) 平面計画の決定、運営の検討など
- (5) インテリアや緑の検討、運営の検討など
- (6) 設計案の最終確認、運営の検討など



市民ならではの発想で、考えを広げていくことも今後は大切だと思います。



八幡町コミュニティ協議会
元委員長 渡邊卓治さん

新コミセンに向けた議論

す。そこで平成17年に移転新築の陳情提出を決議し、同年末の市議会で採択されました。

その後は、移転先の協議に奔走したり、東日本大震災の影響で工事が中断したりといった苦労はありましたが、移転新築に向けて前進。平成23年には市民参加でのオープンなワークショップが6回開催されました。

ワークショップは、市職員も含め毎回30〜50名が参加。設計者が直接その意図や事情を説明し、意見が出るとその場で作図して議論してくれました。また、植栽といったテーマではその分野の専門家を招いての解説があり、「広く使いたい」「自然な交流を促したい」など、私たちの願いの多くが、納得できる形で実現できたと感じています。

皆でつくりうという思いが結実した八幡町コミセンを、今後も多くの方に利用していただきたいと願っています。



「わくわくルーム」や授乳室ができ、親子でも安心して利用できるようになりました。



◀2階の部屋はパーテーションで区切られ、開放すれば廊下を含めた広い空間が利用可能に。

▲市民がぶらりと立ち寄れるロビーの設置は、八幡町コミセン新築の最も大きな願いでした。



「collabono コミセン親子ひろば」に集う親子とスタッフの皆さん。ママ同士だけでなく、先輩ママであるスタッフとの交流も共助の子育て支援につながる「親子ひろば」の大切な役割といえます。

「あったらいいな」を 実現し、地域に つながっていく喜び

子育て中のママが気軽に地域とつながれる「collabono コミセン親子ひろば」を吉祥寺南町コミセンで運営する相良さんにお話を聞きました。

ママ友達で支え合った 経験が場作りに

吉祥寺南町コミセンでは、平成12年から市民による「親子あそびの集い」という子育てひろばを月に2回実施してきました。市の子育て事業拡大によって17年に「コミセン親子ひろば」が始まると市と私たちが月1回ずつの開催になりましたが、平成27年から「collabono(こらぼの) コミセン親子ひろば」として月2回の開催に戻り、私たちとしては原点に返った形で運

営を続けています。

元々は、自分が子育て中のとき、市内の児童館が遠く、杉並区の児童館を利用していった経験からママ友達と「コミセンで遊べる場を自分たちでつくろう」と活動したことがベースになっています。下の子が小学校に上がる機会に活動を本格化させ「親子あそびの集い」を開きました。以来、16年間、親子ひろばを通じて多くの方と出会い、地域とつながることができたと感じています。

今では私の子どもも自然と

近所に知らない人を見かけて警戒するよりも、互いに知り合って地域の「輪」が広く厚くなっていくといいなと思います。

吉祥寺南町コミュニティ協議会 副委員長

相良郁枝さん



●利用者とスタッフの声

ママ同士の交流は気分転換や情報交換にもなって助かります。



国枝さん（利用者）

手伝いというより子どもたちと楽しませてもらっている感覚です。



若尾さん（スタッフ）

地域で孤立せず子育てできたのはコミセンのおかげでした。



山浦さん（スタッフ）

コミセンの活動を 多様なメディアで情報発信

コミュニティセンターの活動やイベントについては、各家庭に配布される「コミセンだより」や「市報むさしの」(最終ページ)をご覧ください。武蔵野市ホームページでも最新情報をお届けしています。むさしのFMの番組「マイシティむさしの」では毎週金曜日に各コミセンの方が活動を紹介しています。



フェイスブックページでもコミセンの活動を紹介中

気軽に楽しみながら、 世代を超えた 地域のつながりを

コミュニティ 研究連絡会 会長
大石彰さん



コミュニティセンターは、地域のボランティアとして手をあげていただいた皆さんが、運営委員や協力員となって運営しています。コミセンまつり、七夕、クリスマス会、子ども科学教室、親子ひろば、絵画教室や高齢者の健康体操などのイベントや事業を通じて、多世代のいろいろな方に参加いただけるように運営委員は努力しています。今後は、もっとたくさんの幅広い年代の方にも参加してもらえるとありがたいと思っています。これまでコミセンに行ったことのない方、武蔵野市に引っ越してきたばかりの方は、ぜひ一度お近くのコミセンにお越しください。そして、ご自身の興味あることから利用してみてください。



自分が助けられた体験からスタッフ参加を始めた山浦さん。人形アニメーションの仕事をしていた経験を生かし、親子で楽しめるおもちゃ作りのコーナーを実施しています。



9月に開催した「0歳からの親子で楽しむコンサート」では、バイオリン奏者とフルート奏者のママたちに、相良さんの長男がファゴットで加わり、演奏を盛り上げました。

地域の輪が広がる喜び

地域になじみ、いろんな方に声を掛けていただきます。場作りを通じて、自分や家族が地域とつながってこられたのは本当に大きな喜びです。

このコミセンには演劇や音楽に使えるスタジオがあるので、ある日、親子ひろばを通じてスタジオ利用を知ったというママさんが楽器練習している姿を見かけまし

た。同様な方がもう一人いたので声をかけ、ママたちの素敵なコンサートを開いてもらいました。よく知る人同士で演奏会ができて、とても楽しかったです。

コミセンは、人のつながりがあるからこそ、自分がやりたいことをできる場です。互いに協力していろいろなことを実現し、輪を広げながら、まちづくりしていけるといいなと思います。

武蔵野市のコミュニティセンター 16 館

本町

吉祥寺の活気の中で 人をつなぐ

吉祥寺の繁華街で、市外の利用者も多く、予約が難しいほど活動が盛んです。新舞踊・書道・生け花など芸術活動も充実しています。また、環境浄化運動の推進、生活に密着した企画にも力を入れています。



【事業】センター祭、元気市、まちをきれいに、ふれあい講座など
吉祥寺本町1-22-2 / Tel・Fax 22-7002

吉祥寺
西

気楽に立ち寄れて 多世代交流

静かな住宅街でぱっと目に入る、四季折々の花が咲く開放的な玄関アプローチが特徴です。地域の人の相互の信頼関係構築を主眼に、交流の場や懇談会などの定期活動を数多く開催しています。



【事業】あそぼうよ、あるこうかい、コミセンまつり、園芸クラブなど
吉祥寺本町3-20-17 / Tel・Fax 55-3297
・分館：吉祥寺本町4-10-7 / Tel・Fax 55-3297

吉祥寺
北

スポーツや音楽で 人々を結ぶ

体育館や2000冊を超える図書が自由に閲覧できる広いロビーがあり、大人数で活動できる空間が充実しているコミセンです。ピアノの三大名器の一つである「ペヒシュタイン」が置かれ、音楽関係のイベントも活発です。



【事業】文化祭、おやこ劇場、北コミ市場、輪のひろばなど
吉祥寺北町1-22-10 / Tel・Fax 22-7006

けやき

新しい活動やイベントが 盛りだくさん

建設まで7年間も話し合いを重ね、地域の要望から工作室やギャラリーなどを備えたコミセンです。「まちづくり局」の事業では、世代や立場を超えてつながる12チームが、さまざまな活動を企画・実行しています。



【事業】けやきまつり、けやきどんど焼き、けやき夏祭りなど
吉祥寺北町5-6-19 / Tel・Fax 54-8719

吉祥寺
東

和風の平屋と庭で ほっと心が和む空間

日本画家の野田九浦邸の屋敷跡を生かした趣あるコミセン。明るいロビーはサークルの打ち合わせや学生の学習場として人気です。毎月開催する「つどい」では積極的に地域問題などを幅広く語り合っています。



【事業】アジアを知ろう、お餅つき、まち企画、落語会など
吉祥寺東町1-12-6 / Tel・Fax 21-4141

本宿

開放的な交流の場

自然の光をよく取り込むガラス張りのデザインが気持ちよいコミセン。館内は、明るく開放的なロビー・ホール・子ども室・多目的室・和室など、多様な年代の方が利用しやすい空間が充実し、にぎわっています。



【事業】コミセン祭り、子ども劇場、春の足音コンサートなど
吉祥寺東町3-25-2 / Tel・Fax 22-0763

吉祥寺
南町

井ノ頭通りに面した 集いの場

多目的ホールやスタジオ、広いキッチン、プレイルームも備えた、地下を含む3階層の大型館。くつろぎや趣味の集いはもちろん、環境や防災などへも積極的に取り組み、地域のつながりを深める活動に力を入れています。



【事業】南町文化祭、桜まつり、ふれあい企画、パソコン教室など
吉祥寺南町3-13-1 / Tel 43-6372 Fax 43-6364

御殿山

大勢の人が 自然と集まるコミセン

吉祥寺駅から徒歩5分、井の頭公園と井の頭自然文化園のすぐ近くにあり、多くの方から気軽に立ち寄れる憩いの場として愛されています。地域の方との絆を深める企画が数多く開催されています。



【事業】みんなでカフェ、健康麻雀、みんなで忍者、防災訓練など
御殿山1-5-11 / Tel・Fax 48-9309

● 境地区

● 中央地区

● 吉祥寺地区

地域の特色や成り立ちの違いによって、各地で違った特色を持つのがコミセンの面白さ。興味を持ったコミセンがあれば、気軽に立ち寄ってみましょう。

関前 地域の小・中学生でにぎわう

小・中学生や親子が気軽に立ち寄り、自由に楽しむことができる開放的なロビーと前庭が特徴です。毎年コミセン祭りで販売するコミセンまんじゅうも名物の一つ。ふれあいの機会豊かなコミセンです。



【事業】コミセン祭り、子ども劇場、小さな音楽会、スポーツ大会など
関前2-26-10 / Tel・Fax 51-0206 ※工事により平成29年
・分館：関前3-16-6 / Tel・Fax 51-0206 2月末まで休館

西部 多世代による豊かな交流の空間

亜細亜大学に隣接し、緑の多い環境にあるコミセン。夕方には大学生や高校生も立ち寄り、多様な世代の人が利用しています。多様なスポーツ・芸術のサークルがあり、人のつながりを広げています。



【事業】コミセンまつり、文化祭、囲碁将棋大会、カラオケ大会など
境5-6-20 / Tel・Fax 56-2888

境南 長く愛されるコミセン第1号

武蔵境駅から南へ徒歩10分。市内のコミセン第1号として設立から40周年を迎えた歴史あるコミセンです。200人が収容可能な体育室や自由に使える児童室を備えるなど、幅広い利用者に応える施設が充実しています。



【事業】文化祭、文化教養講座、モーニングハイク、コンサートなど
境南町3-22-9 / Tel・Fax 32-8565

桜堤 自然に恵まれた緑豊かなコミセン

玉川上水と小金井公園に隣接し、四季折々の自然を楽しむコミセンです。小規模ながらアウトホームな雰囲気です。親密なつながりを持ちやすく、災害時や緊急時には互いに頼れる関係の構築を目指しています。



【事業】文化祭、天体観望会、夏まつり、落語鑑賞会など
桜堤3-3-11 / Tel・Fax 53-5311

中央 多くの方が集まる大型コミセン

市役所の旧庁舎を活用した、3階建ての大型館です。市民文化会館などが近く、交通の便がよいことから、いろいろな活動の拠点として利用されています。イベントや他団体との共催事業なども豊富です。



【事業】夏まつり、文化祭、もちつき、バス研修など
中町3-5-17 / Tel・Fax 53-3934
・中町集会所 中町1-28-5 / Tel・Fax 53-2251

西久保 三鷹駅からほど近い歴史あるコミセン

休館は月1日だけにするなど、多くの利用者の要望を取り入れる努力をし、若者から高齢者までが利用しやすい空間づくりに力を入れています。創立時から40年続くナイトハイクなど伝統あるイベントも特徴的です。



【事業】ふれあいまつり、子ども科学実験教室、西久保を語る会など
西久保1-23-7 / Tel・Fax 54-8990

緑町 市役所そばの桜並木の中に建つ

練馬区と西東京市に近いため、広いロビーを使ったイベントでは他地域との交流も盛んです。地域住民を中心とした防災訓練、防犯運動、高齢者の居場所づくり、中高生の健全育成にも力を入れています。



【事業】新春住民のつどい、親睦会、歌声ひろば、子どもまつりなど
緑町3-1-17 / Tel・Fax 53-6954 ※工事により平成29年
3月14日まで休館

八幡町 地域の声で生まれ変わったコミセン

平成24年に新築移転したコミセン。明るいロビーとパーティション式の部屋などを設け、地域の人々が集まりやすい空間が充実。地域の歴史資料や広く使える掲示スペースなど地域の情報発信にも力を入れています。



【事業】コミセンまつり、植物を楽しむ会、ロビーコンサートなど
八幡町3-3-16 / Tel・Fax 54-0169